

# 郷音

No. 89

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁目一、十三

☎〇七二・二二三二・三五三一

「会堂長(ヤイロ)の家から人々が来て言った。『お嬢さんは亡くなりました。』イエスはその話をそばで聞いて、『恐れることはない。ただ信じなさい』と会堂長に言われた。：一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、家の中に入り、人々に言われた。『なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。』」

(マルコ福音書五章)

会堂長ヤイロの幼い娘が亡くなりました。イエスはヤイロに「恐れることはない。ただ信じなさい」と言われます。一行がヤイロの家に着くと、人々が大声で泣きわめいて騒いでいました。

当時は「泣き男」「泣き女」という、葬儀で泣くことを仕事とする人たちがいて、その人たちが呼ばれていたでしょう。「泣き男」「泣き女」の習慣は、ユダヤの国だけ

でなく中国にも日本にもあったと言います。国の違いや時代を越えて「泣き男」「泣き女」がいるのは、人は死の前では泣く以外にどうしようもないからでしょう。死は人間にとって決して乗り越えられない冷たい壁であり、死の前では人はただ泣くしかない、思い切り泣

## イースターの救い

塚本一正牧師

マルコによる福音書五章三五〜四三節



るので。もうここから先はどうにもならないと、人々が投げ出すその先に、キリストは踏み込んで行かれます。死の中にも。私たち人間にとって冷たい壁であり、その前ではあきらめるしかない死の中にまで、救い主キリストは踏み込んで行かれるのです。

主は子供の手を取って「タリタ、クム」「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」と言われます。少女はすぐに起き上がって歩き出

いて慰めを得るしかないということなのでしよう。しかしキリストは、そうやって死の前で泣き騒ぐ人々たちに向かって言われます。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ」と。そして、両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれます。

救い主イエス・キリストは、私たちが終わらだと思ふことの、さらに向こう側に踏み込んで行かれ

しました。主は食べ物を少女に与えるように言われます。主は「この子は眠っているだけだ」と言われましたが、まさに長い眠りから目覚めた子にしてあげるように、食べ物を与えなさいと言われたのです。

このことはとても大事なことを教えています。救い主イエス・キリストによつて、今や「死」は「眠り」になったということです。もはや死は、私たちにとって全ての

終極ではありません。死は、主の御手のうちで眠りに就くことであり、やがて主の「起きなさい」との呼びかけによつて、死の向こう側で目覚める日が、私たちには訪れるのです。

今年も主イエス・キリストの復活を記念するイースターを迎えました。聖書は私たち人間の死を「罪が支払う報酬が死です」と語っています(ローマ六章)。キリストは私たちが罪と死から救い出してくださるために、私たちの罪を自ら引き受けて十字架にかかり、私たちの死の中に踏み込んでくださいました。そして三日目に父なる神の栄光によつて復活させられて、私たちに新しい命を与えてくださったのです。

この十字架と復活の救い主イエス・キリストによつて、私たちは今生かされているのです。決して無に帰することのない命を生かされています。私たちは皆やがて死にますが、死の向こう側で、キリストの「わたしはあなたに言う。起きなさい」との呼びかけによつて、目覚める日が来るのです。